

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成22年10月29日現在

今月の重点活動

新規就農者激励！！（岐阜地域農業担い手交換会開催）

10月6日、岐阜地域農業担い手情報交換会を各担い手組織・農林事務所等が共催して、岐阜総合庁舎で開催した。

この交換会は、管内の新規就農者を含む農業後継者や農業士等の農業経営者・関係者が集まり、情報交換や交流を深め人的ネットワークづくりを図るためのもので、53人の参加があった。交換会では、高山市（株）寺田農園代表の講演を聴いた後、分散会・交流会を行い、参加者からは「若くても提案できる環境を…」の発言もあり、新規就農者・先輩農業者の交流を深めることが出来た。



主要農作物の生産振興

■ふるさとのじまん農産物づくり（アスパラガス）

仲間が増え、現地研修会にも農家の熱心さが伝わる！！

10月16日にJAぎふ羽島アスパラガス部会の現地研修会が新規生産者8名の参加のもと開催された。普及指導員から今年の結果を踏まえ、次年度の春芽の萌芽促進を狙った養分貯蔵の肥培管理方法等について指導を行い、質問の多い熱心な研修となった。

なお、出荷は10月1日に終了し、猛暑から出荷量は計画を下回った。 **現地研修会**



新規導入者の確保に普及指導員・営農指導員等が奮闘中！！

管内の既存農家の面積拡大や新規導入者の勧誘のため、普及指導員と営農指導員等による昼夜の訪問活動を展開し、10月末現在で3戸11aの増加が確定した。今後も産地化に向けた新規導入者の確保やフォローアップ活動を行っていく予定としている。

■水稲 チラシで適期収穫啓発（管内）

新ハツシモの荷受けが9月27日から始まった。10月10日頃のCE荷受水分が20%を下回るものもあり、刈り遅れ防止のチラシを配布（10/13付け）し、JAを通じて生産者に適期収穫の周知徹底を図った。

普通植えの新ハツシモの収穫は週末の16、17日にピークを迎えた。早植えで目立った白未熟（乳白、心白）は、普通植えには殆ど見られなかった。荷受量は平年よりやや少なく、収量は生産者の反応からも平年よりやや少ないと予想される。

■飼料用稲（WCS）現地検討会開催（羽島）

10月4日、県耕畜連携農業推進連絡会議等の主催により飼料用稲（WCS）現地検討会が羽島市内で県内各地の農家や関係機関等約70名の参加により開催された。

検討会では、収穫調整作業の実演が行われ、出席した羽島市内の営農組合や畜産農家は今後の推進に期待を寄せている。



WCS現地検討会

■いちご 花芽分化遅れる（管内）

記録的猛暑の影響で花芽分化が大幅に遅れた。頂果房の花芽分化は、濃姫9/19～22、美濃娘9/17～21と昨年と比べて7～10日遅れた。腋果房は、定植後の活着不良や頂果房の花芽分化遅延による肥切れで分化が早くなった。どの品種も果房の間隔は短い傾向。

農業普及課では、今後安定出荷のための草勢維持や花数制限などの徹底を図っていく。

いちご新規就農者の巡回指導（岐阜、本巢）

10月14日に今年度新規就農した6名を対象に、栽培システムのチェックのため、資材メーカー等の関係機関の担当者と連携し巡回指導を行った。初年度ということもあり設備のトラブル等が多く発生しており、細部までチェックを行った。

いちごパッケージセンターの導入検証（管内）

新規就農者の定着支援及び多様な販売ニーズに対応するため、今年度、県の支援を受けてJAぎふ「いちごパッケージセンター」の導入検証を実施することとなっている。

今後は、適正な利用料や労務管理等コスト管理などの検証を行っていく。

■えだまめ 抑制栽培の現地検討会開催（岐阜）

10月上旬までの出荷量、販売金額とも対前年比88%である。

10月26日に抑制栽培の現地検討会を開催し、生産者やJA等関係機関とこれまでの生育状況や出荷予測についての情報交換や栽培の課題の検討を行った。高温乾燥による発芽不良等の課題も残されたが、生育は良好で収穫は11月下旬まで行われる予定。抑制現地検討会



■ほうれんそう 出荷始まる（岐阜）

今年は、高温乾燥のため昨年より遅れ9月末より一部出荷が始まった。10月25日に目揃え会が行われ、べと病対策の指導を行った。

冬どり作型の約10品種の試験を、現在準備中。品種試験



■だいこん 関西の正月の台所を支える「祝大根」の作付、前年比104%（岐阜・各務原）

今年も祝大根の播種が10月11～16日に行われ順調に生育している。作付面積は、429aで前年比104%に拡大。祝大根は、関西地域の正月の雑煮に欠かせない野菜で、関西近郊産地が年々減少する中、岐阜が最も信頼される産地として育ってきている。

■にんじん 冬にんじん出荷間近（各務原）

冬にんじんの8月中旬以降に播種したにんじんで生育遅れが目立ち出荷遅れが予想される。10月29日の生産販売会議で市場卸との情報交換が行われ、初出荷時期、販売方針等が確認される。

■ブロッコリー 出荷始まる（岐阜、本巣、各務原） 初出荷（岐阜市七郷）

定植期からの高温により生育が進み、10月22日には早生品種の初出荷を迎え、11月2日に目揃え会を行う予定である。農業普及課では、高温による病害虫対策にも注意するよう指導した。



■柿 各品種とも出荷遅れる（岐阜、本巣、瑞穂、羽島）

岐阜柿のスタートを切った「西村早生」の出荷が9月末で終了し10月からは「早秋」、「太秋」、「早生富有」等と出荷が続いて始まった。各品種とも着色が遅れ、小玉傾向で出荷量も少ない状況。

10月26日に県下統一目揃え会が開催され、本格的な「富有」の出荷が始まる。出荷始めは11月7日。



目揃え会（早秋・糸貫）

■鉢花 日本農業賞現地審査実施。鉢花経営者が県代表として推薦

10月1日に、日本農業賞県代表（個人の部）の現地審査会が開催された。推薦候補者は、岐阜市内の大規模鉢花経営者（法人）。審査の結果、県代表として推薦されることとなった。現地審査風景



担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー スキルアップ研修会の開催

10月1日、アドバイザー会員17名の出席により、農業会議を講師に農業者年金について学習を行った。特に若い後継者及び配偶者へは加入配慮の理解が得られた。

家族経営協定については、締結者の意見を聞きながら意見交換が行われ、新たな協定締結に向け農業普及課として今後も支援をしていく。研修会の様子



■女性起業グループ「柿りん」 新商品の開発研究支援

瑞穂市産米粉活用の「柿りんパン」姉妹品の開発に向け、10月13日に「柿のコンポート」の試作への支援を行った。瑞穂市ふれあいフェスタで販売する予定(11/6-7)

地域の動き等

■JAぎふ管内主要園芸品目産地の方向性議論（産地戦略会議設置）

生産者の高齢化等から産地規模の縮小が懸念されている中、JAぎふの販売額100億円目標及び県の普及基本計画・県基本計画各々の計画及び目標達成のための具体的な行動計画の策定とその進捗管理を定期的に行う「産地戦略会議」が10/13に開催された。



産地戦略会議の様子